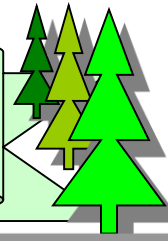




街路樹

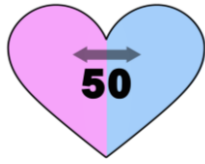


道徳科の授業改善の視点と実践例紹介

特別支援教育の充実に向けて②

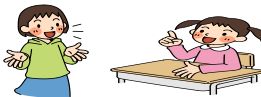
「特別の教科 道徳」が全面実施となってから5年。資質・能力を育成するため、「考え、議論する道徳」への質的転換が求められてきました。現在でも「考え、議論する道徳」をどう行っていけばよいのか悩んでいる先生も多いと思います。

先日、ある小学校の授業を参観しました。その中で、自分の気持ちを可視化するため、「ハートメーター」というツールを使っていました。児童たちは、自分の気持ちをハートの形に切り取られた赤と青の色の割合で表現していました。授業では、その「ハートメーター」を児童で確認し合い、まずは自分の考えに近い人同士が集まり、意見交換を行い、その後、自分の考えと異なる人と話し合いを行いました。自分の考えを「ハートメーター」で可視化することにより、揺れ動く気持ちを、考えが異なる人と積極的に議論をする姿がありました。



ハートメーター

「話し合いなさい」「議論しなさい」と言ってもなかなかできないのは、自分の考えや話し合いの視点が明確になっていないことが考えられます。「ハートメーター」のような自分の考えを可視化できるツールを効果的に使うことにより、対話的な学びを通して、「考え、議論する道徳」の実現を図っていきましょう。また、自分の考えを可視化できるツールにはいろいろあり、デジタル化されているツールもあります。下にデジタル化されたツールについての資料のURLを載せますので、参考にしてください。



【参考URL】

- ・デジタル化した「ハートメーター」等
(<http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/Heart-meter3/>)
- ・ミライシード こころメーター
(<https://miraiseedfansite.benesse.ne.jp>)

現在、特別支援教育アドバイザーとして各学校を訪問しながら「授業のユニバーサルデザイン化」について校長先生方とお話をしています。これは、特別な支援が必要な子どもを含めた、すべての子どもが楽しく学び合うことを目指す授業デザインであり、指導の理念でもあります。

例えば「視覚化」という方法では、授業の情報を「見える化」します。聞いて理解することが苦手、注意不足による聞き逃し、聴覚記憶の苦手さなどへの対応を意図してのものです。障がいの有無に関わらず、気持ちが授業から逸れてしまった子どもが学習に戻るための助けにもなります。一般的に授業の中では聴覚情報が多く用いられていますが、聴覚・視覚の2つの情報を両方提示することで、多くの子どもたちにとって情報が入り易くなり、授業が分かり易くなるということでもあります。

但し、視覚化が取り入れられればそれでよいのかというとそうではなく、これが視点の一つであると考えることが大切です。視覚化で学び易くなる子どももいるし、他の工夫で学び易くなる子どももいます。実態に応じ、学習者側に立っての発想で授業をデザインしていく必要があるのです。ユニバーサルデザインについて述べられた書籍には、そういった様々な視点が示されていますので、資料等をもとに授業に生かしていただきたいと思います。

この考え方が、特定の子どもへの個別の配慮につながるのであれば、それは合理的配慮にも発展させることができます。教師がお膳立てするのではなく、子ども自身が自分に合った学び方のデザインを選択したり工夫したりできるようになれば、個別最適な学びにもつながります。

「自分は図に表して考えてみよう(まとめてみよう)」「何度も唱えて覚えてみよう」「〇〇君には言葉だけでなく数直線と併せて伝えた方が分かり易いかな」そのような学びにもつながっていくことを期待しています。



いじめ防止対策講座より



8月7日(月)、本センター教職員研修室にて『いじめ防止対策講座』を実施しました。

はじめに学校教育課主任指導主事より、「いわき市のいじめの現状」と題して、いわき市の現状と教員が求められている責務について講義を行い、受講者は自分や自校の現状と照らしながら真剣に聞き入っていました。いじめ対策を講じているというだけでなく、それが有効に機能しているか、継続して変容に目を向けているかチェックしながら進める必要があることを、強く感じました。

次に、「いじめ防止の対策と事後対応のポイント」と題して、東京成徳大学の石隈利紀教授による講義・演習が行われました。石隈先生がご専門の学校心理学や生徒指導など、多方面からいじめ対策についてお話をいただきました。いじめ対策は、生徒指導提要の改訂の柱にもあるように、『①すべての子どもを対象に、②学校教育すべての場面で、③チーム学校を通して、押し進められるべきである』という考えをベースとし、「援助資源チェックシート」「援助チームシート」を起点とした援助チームが運動して機能することで、いじめの改善・解消・再発防止に資する具体的な活動となることを示していただきました。昨今、積極的に認知しているいじめの件数を負担と捉えるのではなく、認知できている事実を前向きに捉え、その背景・要因に応じた対策を考えることが学校を動かし、子どもの健全な成長に結びつくという認識の基、実効ある取組みを進めていきましょう。



研修動画の紹介

令和5年度調査研究委員会 国語科の研修動画をアップロードしました！

今回は、中学3年の国語科の単元「作られた『物語』を超えて」です。授業のポイント(視点)を動画で確認できるように編集しました。ぜひ、ご活用ください。資料の保存先や動画の視聴方法については、「街路樹175号」をご参照ください。